

# 保護者のみなさまへ

～「令和6年度全国学力・学習状況調査」(4/18実施)の結果について～



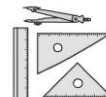
河内長野市立千代田中学校

## 《基本的な考え方》

本調査については、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。」「そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」と文部科学省の目的にあります。これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

○子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ることで、学習意欲を高め、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。

○学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。



## 《調査結果の取り扱い》

◇本調査により測定できるのは、学力に限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。

◇今年度も昨年度と同様、全国学力・学習状況調査の結果を提供いたします。

「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

## 《お願い》

□学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちや兄弟姉妹と比較することは自尊感情を傷つけ、意欲を低下させる場合があります。子ども個人の成長を認め、さらなる課題を意識させることで、学習意欲が高められるよう、ご対応お願いします。

□学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にさせていただきますようよろしくお願いします。

□調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないよう、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。



学力調査の概要

国語

設問番号	学校の平均正答率
1一	54.2
1二	66.9
1三	38.0
1四	37.3
2一	30.3
2二	66.2
2三	59.9
2四	37.3
3一	81.0
3二	49.3
3三	72.5
3四	36.6
4一	53.5
4二	50.0
4三	76.1

数学

設問番号	学校の平均正答率
1	23.2
2	46.5
3	57.7
4	59.2
5	65.5
6(1)	89.4
6(2)	25.4
6(3)	32.4
7(1)	71.8
7(2)	14.1
7(3)	38.7
8(1)	81.0
8(2)	9.9
8(3)	71.8
9(1)	19.7
9(2)	23.2

**概要**

短答式、選択式の問については、正答率が比較的高く、無解答率が低い。知識・技能の観点のなかでも「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」を問う出題について、強みが感じられる。

一方で、記述式の問について、自分の考えが伝わる作文の工夫が十分でなく、無解答率も高くなるなど、表現力の未熟さが正答率の低さにつながっていると考えられる。

**特に成果が見られた問題例**

知識・技能に関する問の正答率の高さは、日々の学習・小テストなどの積み重ねの成果といえる。

また、選択式の「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」問題や、短答式の「内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる」問題の正答率の高さから、思考・判断・表現の力がつきつつあることがわかる。

**特に課題が見られた問題例**

「他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題、「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる」問題など、自分の考えを一から記述するタイプの問題への苦手感と消極的な姿勢が、正答率の低さだけでなく無解答率の高さに表れている。「自分の考えを自分で表現する」機会をふやし、「表現すること」に前向きに取り組めるようにすすめることが課題である。

教科の平均正答率 54.0 (府 57.0・国 58.1) 対府-3.0

**概要**

正負の計算等の基本的な問題は正答率が高く、無回答率も低い。

一方で、文章や数式の意味を読み取り、数学的な表現で説明することが課題であり、記述問題の無回答率が高い。

特に、文字を用いて説明する問題が苦手な生徒が多い。

**特に成果が見られた問題例**

問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる問題では特に成果を見て取れた。

意図が分かりやすい計算問題は、取り組めている生徒が多い。

また、二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題は、1次関数の知識を活用して取り組むことができていた。

**特に課題が見られた問題例**

連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる問題の正答率の低さが見て取れる。

文章から必要な情報を読み取り、言葉で説明することが課題である。

教科の平均正答率 46.0 (府 51.0・国 52.5) 対府-5.0

## 学習状況調査の概要

生徒質問紙より

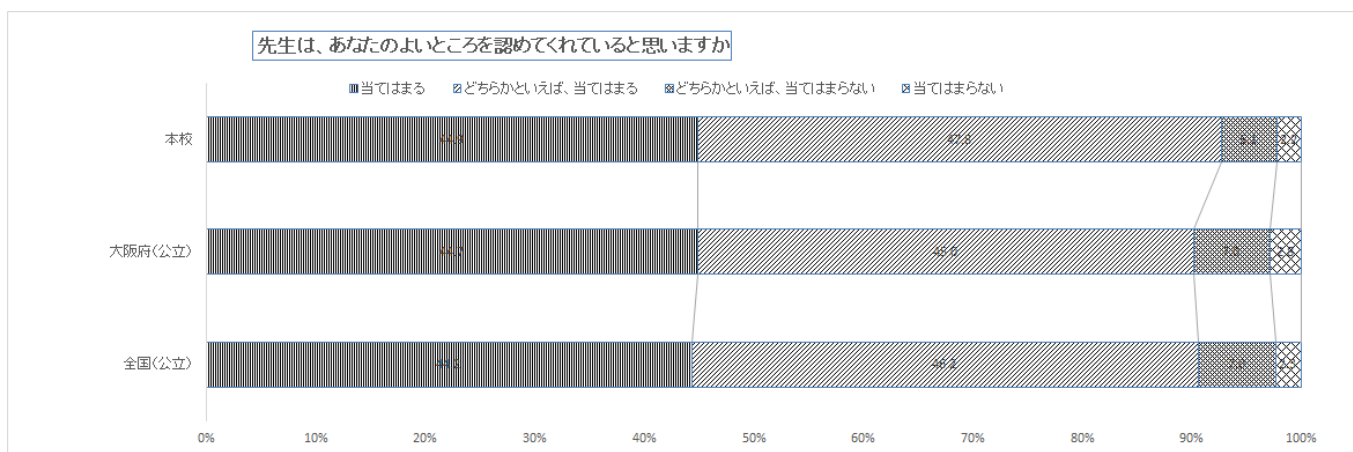
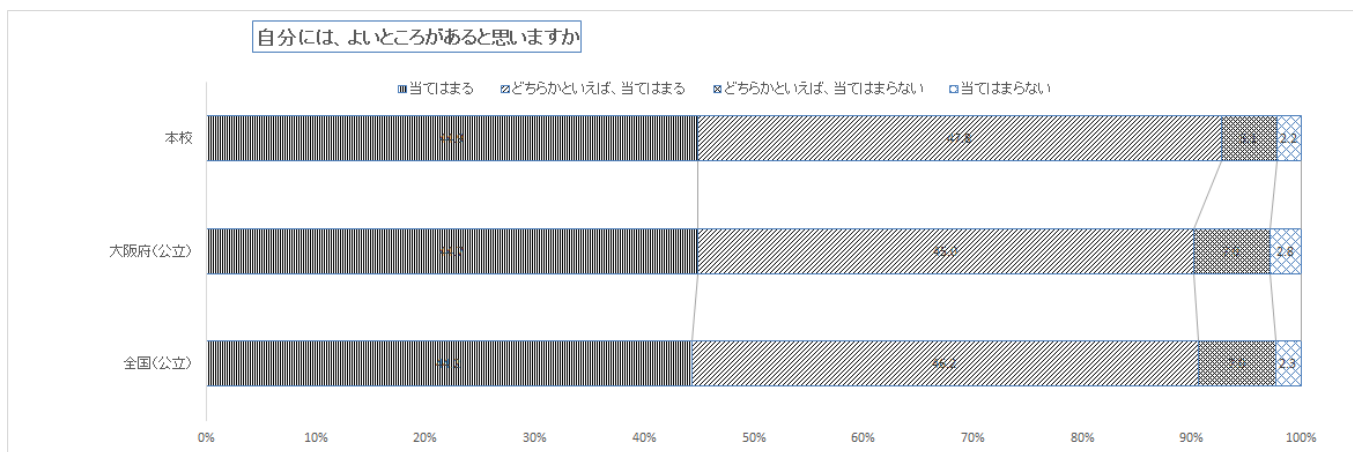
<過去3ヶ年の経年比較>

(数値は、各項目の肯定的回答の割合(%)、差は府比を示す)

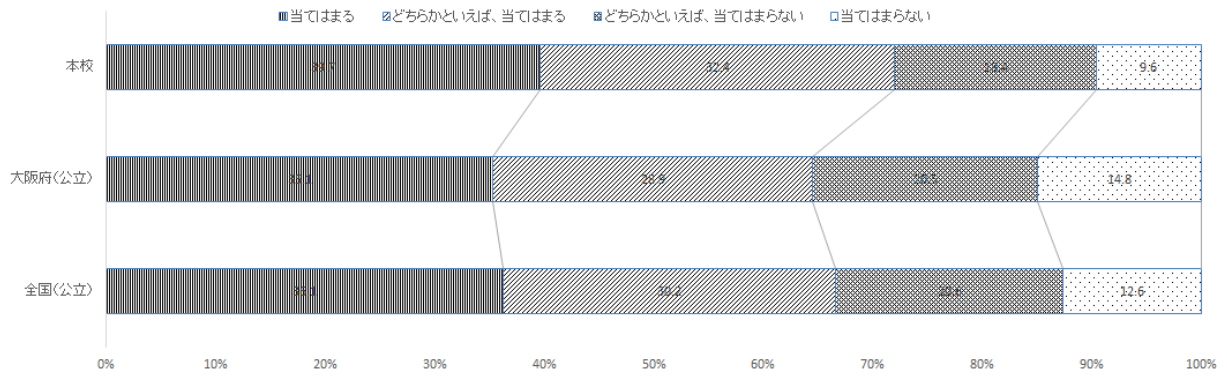
質問項目	R6	R5	R4	差	大阪府
① 自分には、よいところがあると思いますか	83.1↗	74.2↗	64.7	8.9	81.0
② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.7↗	83.9↗	83.6	8.8	89.7
③ 将来の夢や目標を持っていますか	72.1↗	66.5↗	64.5	5.6	64.0
④1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか 【主体的な学び】	72.8↗	65.8↗	64.0	7.0	80.3
⑤1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか 【対話的な学び】	58.8↗	50.3↘	58.8	8.5	67.2
⑥1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	14.7				56.9
⑦学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間を除く)	2.2				7.5

⑥、⑦については、経年比較の資料がないため、R6年より

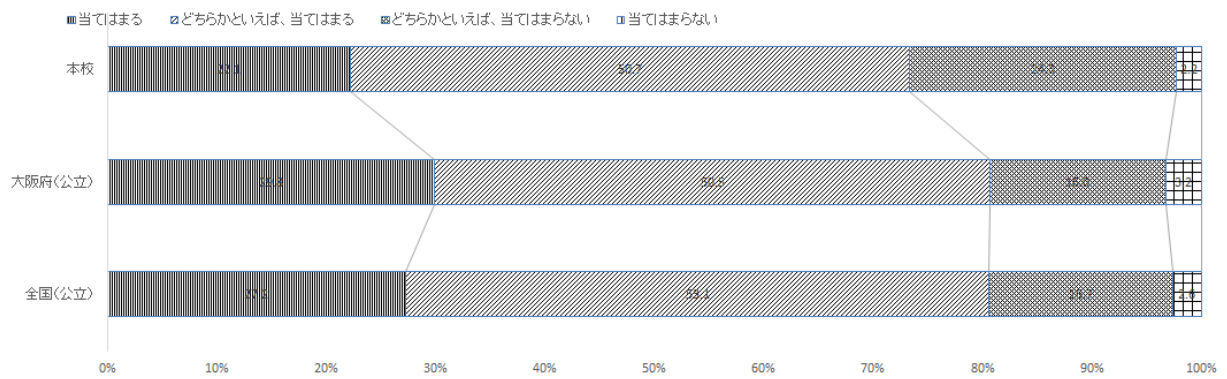
<大阪府、全国との比較>



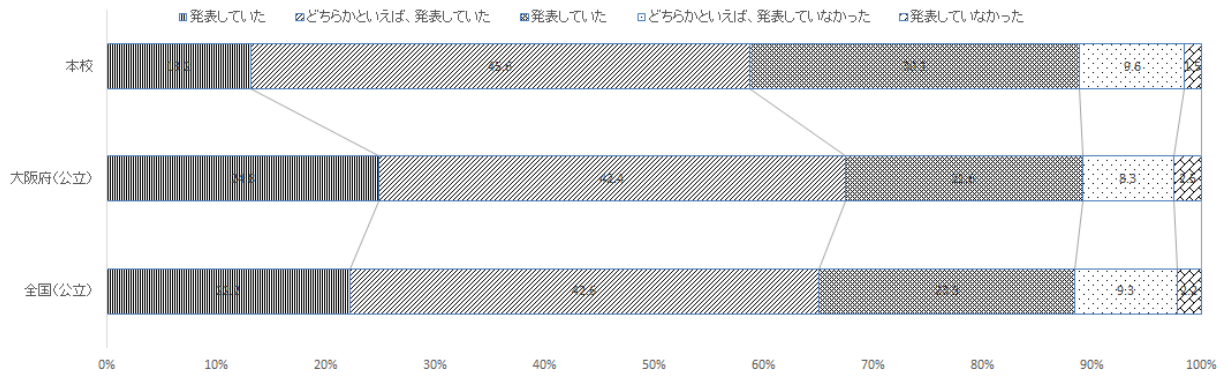
将来の夢や目標を持っていますか



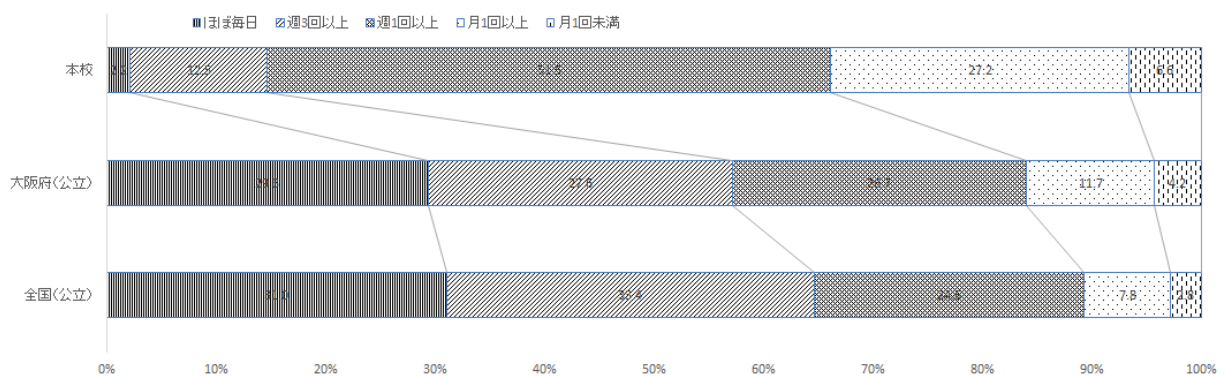
1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



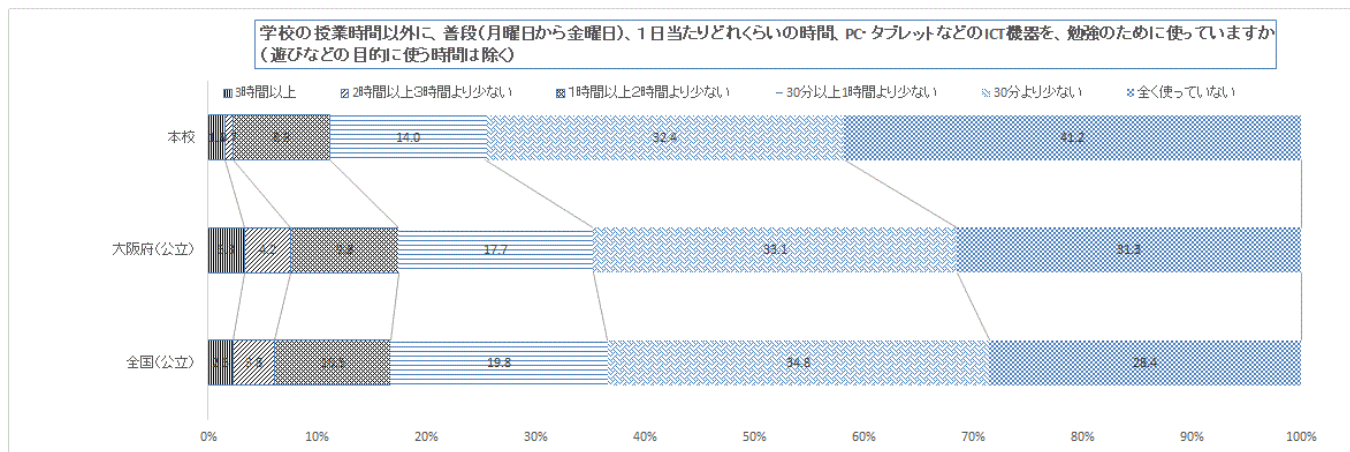
1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか







### 特に成果が見られたアンケート項目例

※数値は肯定的回答の割合

- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」 91.9% (府 89.4、全国 89.8)
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」 89.7%
- ☞肯定的回答のうち、「はい」と回答(=全肯定)した生徒は47.1%おり、府(43.0)や全国(43.5)を上回る
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」 77.2% (府 75.5、全国 76.2) と同じ水準
- ☞友達の意見にしっかりと耳を傾け、ともに協力する楽しさを知っている生徒が育っています。本校学習指導の主題としている「つながり合い学び合い」の精神が生徒に根づいていることを示しています。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」 95.6%
- ☞肯定的回答95.6%のうち、「はい」と回答(=全肯定)した生徒は75.5%おり、府(76.9)や全国(77.5)と同じ水準です。人権道德教育や日常の様々な活動を通して、生徒の心が豊かに生まれ人権感覚が身についていると言えます。
- 「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」肯定的回答80.1%のうち、「当てはまる」と回答(=全肯定)した生徒は25.7%おり、府(26.6、全国 24.9)と同じ水準
- 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」肯定的回答78.0%のうち、「当てはまる」と回答(=全肯定)した生徒は28.7%おり、府(29.5、全国 27.1)と同じ水準
- ☞授業を大切に受け、学習内容を復習している姿勢が見受けられる。今後も、与えられた課題や提出物に対しては真面目に取り組み、毎日の授業の予習復習など、自分なりの学習を進めていくことができるよう支援する。

### 特に課題が見られたアンケート項目例

- 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) ←「30分より少ない」19.9%「全くしない」12.5%
- ☞家庭学習を全くしない生徒の割合が高く、宿題をする習慣や勉強をする意欲のない生徒が一定数いる。自分の進路を見据えて自分にあった勉強方法を提示していく必要がある(府「30分より少ない」11.4%「全くしない」10.6% 全国「30分より少ない」10.4%「全くしない」6.6%)
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」←「当てはまる」15.4%「どちらかといえば、当てはまらない・当てはまらない」32.4%
- ☞「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」←この質問については、肯定的回答(95.5)で大阪府や全国を上回る結果になっている。その結果より持続可能な地域社会の創り手の育成のため、地域に

についての学習、地域の方の活動の周知等の必要性がある。

(府「当てはまる」25.8%「どちらかといえば、当てはまらない・当てはまらない」26.7% 全国「当てはまる」26.4%「どちらかといえば、当てはまらない・当てはまらない」23.6%)

## 調査結果を受けて

### 学校が重点的に取り組んでいくこと

本校は、平成25年度より「すべての子どもたちが、つながり合い学び合う授業づくり」を主題に掲げ、支援教育の観点から合理的配慮に基づく授業研究を行い、12年目を迎えます。この間、学習指導部を中心に生徒の「学力向上」をめざし、学習規律の確立と、生徒の主体的対話的な活動を増やし、すべての生徒が参加し「わかる授業づくり」に取り組んできました。

今年度も～基礎基本の徹底と、自ら学び考える力の育成～をサブテーマとしています。授業を構造化し、めあての提示、言語活動の充実、ふり返り活動等の「授業づくり共通認識リスト」をもとに授業改善を進めています。校内授業公開 month 期間中は学年を問わず相互に授業を参観しています。

また、スムーズな小中接続をはかるため、校区小学校と学力向上担当者会を定期開催し、小中合同研修会、研究授業、家庭学習ノート強化週間や生活指導を行っています。

生徒が自分の考えをまとめて表現できるような授業をめざし、①生徒の思考に即して授業展開を考える(主体的)、②思考を交流させ、協働して問題解決する(対話的)、③つきたい力を焦点化する(深い学び)、を重点に取り組んでいきます。生徒一人ひとりの学力向上・自己肯定感の向上のため、さまざまな領域で教育実践を継続してまいります。

### 生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

①授業中はしっかりと取り組み、わからない部分があればそのままにしておかず、先生に質問しましょう。

②家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。毎日、自分で時間を決めて学習する習慣をつけましょう。特に、その日のうちに、授業内容を復習することが大切です。KGノートを活用したり、タブレットを活用するようにしましょう。

③読書は、すべての学習の基礎となる「考える力」を養います。図書館を積極的に利用し、本を読みましょう。

### 保護者のみなさまに協力していただきたいこと

学習への意欲は子どもの自尊感情と大きく関係します。他と比較するのではなく、お子様の努力や成長を認め、大いに褒めてください。そしてさらなる課題を意識させることで学習意欲が高まります。

ゲームや携帯電話・スマートフォン、SNS関連に費やす時間の長さが著しいのは上述の通りです。睡眠時間が充分取れなければ学校生活だけでなく健康面でも不調をきたします。お子様の生活の様子を把握していただき、場合により適切な対処をお願いします。規則正しい生活習慣が学力向上につながります。また、学校での出来事や地域社会で起こっていることについて、日頃から話し合う時間をとってください。今後とも、ご家庭と学校がともにお子様を健やかに育てていけますよう、ご協力をお願い致します。